

# DEBUT 首長

埼玉県志木市長 香川 武文氏



かがわ・たけふみ 1972年埼玉県志木市生まれ。2000年玉川大学大学院文学研究科修士課程修了、同年志木市議会議員に初当選し、06年、33歳で議長に。4期目途中の13年6月の市長選で初当選。40歳。

## 市民病院、民間移譲で改革へ 市職員の減を市民の力で補完

**志木市** 埼玉県南西部に位置し、都心まで鉄道で約20分のベッドタウン。人口は約7万人。

——選挙戦では市民病院の改革が争点の1つになった。

経営難に陥っている市民病院の改革を巡って、前市長の対応が二転三転した。小児科中心の医療体制を急に変えようとしたり、赤字経営のまま指定管理者制度を導入しようとしたり……。最終的には議会の決議を受け、民間に移譲することで落ち着いたが、対応が迷走したことで、市民の市政への信頼が大きく揺らいでしまった。

私は市議会議員を務めていた時から、市民病院の民間移譲を一貫して主張してきた。病院経営をよく知らない行政が口を挟むと改革が停滞するし、逆に状況を悪化させるおそれさえあると考えたからだ。実際、当市でも医師の雇用が安定せず、診療報酬が高く収益の柱だった整形外科で医師が退職。経営難に拍車がかかってしまった。

市民病院は最終的に医療法人社団「武蔵野会」（埼玉県新座

市）に移譲することにし、9月に基本協定を結んだ。病院の具体的な運営方法などは今後詰め、2014年4月の移譲を目指す。

——工事代金水増しによる公金詐取など市職員の不祥事が相次いだ。

不祥事の背景や要因はいろいろあると思うが、一番大きいのは市役所内部の風通しの悪さだったと私は考える。報告、連絡、相談という職場の基本的なコミュニケーションがとれていれば、不正を未然に防げたのではないか。

組織の風通しを良くすると同時に公益通報制度の再構築も必要だ。不正の事実などを記した書面を提出する現在の仕組みでは、噂話に過ぎない段階での通報は難しい。もう少し使い勝手のいい制度にできないか検討していく。また、外部からの通報も受け付け、第三者機関を交えた調査ができるようにしたい。

さらに弁護士資格を持つ任期付職員も採用し、コンプライアンス（法令順守）の体制強化などにつなげる予定だ。

——所信表明では「市民が主役のまちづくり」を強調した。

市内の各地区に担当職員を配置して市民の声を直接聞き、各地区が抱える課題を、地区が自ら解決できるシステムを現在検討中だ。同時に各地区の担当職員は、様々な能力を持つ市民を発掘する役目も担う。「市民力人材バンク」（仮称）を立ち上げて登録し、市政をサポートしてもらおう仕組みづくりを考えている。

これには、多様化する行政ニーズにきめ細かく対応するほか、行政改革に伴う市職員数の減少を市民の力で補うという狙いもある。

人口は約7万人、面積は約9km<sup>2</sup>と全国の市で6番目に狭い当市は、市民との距離を縮めやすい環境にある。政策の1丁目1番地に位置付け、取り組んでいきたい。

（聞き手は

主任研究員 前島 雅彦）